

## 第 6 回市民参画部会 要点録

日時：平成 28 年 11 月 17 日（木）18：00～20：00

場所：日野宿交流館 3F 会議室

出席委員：小倉委員	東京農工大学名誉教授
鶴田委員	
濱田委員	
井上委員	
森川委員	
片山委員	
飯田委員	東京農工大学
篠田委員	東京農工大学
中西委員	樹木・環境ネットワーク協会
藤田委員	環境保全課
高木委員	緑と清流課
新井委員	緑と清流課
清水委員	学校課
加藤委員	生涯学習課

※敬称略

### 次第

- 1.開会・あいさつ
- 2.報告
  - ・第 5 回市民参画部会の結果（資料 1）
- 3.ワークショップ
  - (1) ワークショップの位置づけ（資料 2）
  - (2) ワークショップ「日野市生物多様性地域戦略の施策・行動計画でやるべき事の洗い出しと整理」（資料 3）
- 4.その他

### 配付資料

- 資料 1：第 5 回市民参画部会 要点録
- 資料 2：第 6 回市民参画部会ワークショップについて
- 資料 3：ワークショップの流れ

## ワークショップの概要

### 協議テーマ

日野市生物多様性地域戦略の施策・行動計画でやるべき事の洗い出しと整理

### 目的

日野市の生物多様性にとって大切な課題を、施策や行動計画に反映する

### 内容

現地調査やこれまでの市民参画部会で得られた日野市の生物多様性の課題から、問題の解決に向けた施策や行動計画でやるべき事の洗い出しと整理を行う。そこから考えられる到達イメージ（目標）も合わせて検討する。

検討は現段階で基本方針（仮）として考えられる、以下の 3 つのテーマごとにグループに分かれ、ワールドカフェ形式のワークショップで実施した。

- ①人々の関心を高めること
- ②人と自然の関わりをつくること
- ③日野らしい自然を守り育てること

## ワークショップの結果

## グループテーマ：①人々の関心を高めること

大きく 3 つの到達イメージとして、「生物多様性を知らせる」、「食べてみて生物多様性を感じる」、「自然体験の豊かな人がいっぱいいる日野市」が挙げられた。それぞれの到達イメージに合わせて、やるべき事が検討された。

課題	到達イメージ	やるべき事
・生物多様性の普及啓発 ・外来種、有害鳥獣の対策	・生物多様性を知らせる	有害外来種を選定する
		外来種を悪者に仕立て上げる。アライグマ等
		「生きものの検定」の実施する
		身近な環境に「こんな生きものがある」ことをしてもらい機会づくり
		「生物多様性」という考え方の認知度を向上させる
		生物多様性を SNS で伝える
・生物多様性を生活で身近に感じる	・食べてみて生物多様性を感じる	生きものと「食べる」ことをつなげる。野草や魚、虫等
		料理方法を紹介する(SNS の活用)
		地元のジビエを食べる機会をつくる
		市民自身に虫・植物・魚を見つけてもらう機会をつくる
		衣食住と生きものの関連付けを行う
・生物多様性を体験する機会の減少 ・世代間で共有できる自然体験をつくる ・生物多様性の教育展開	・自然体験の豊かな人がいっぱいいる日野市	教員を教育する(生きものの関係について)
		教員の指導を補う
		動物園に行く機会を利用する。実物を見ながら勉強する
		生きものの「素晴らしさ」を教える(子供会・自治会で)
		自然に関心のない人と自然の接点をつくる
		ミニ水族館のような場所で実物を見せる
		ビオトープなど、自然に触れるきっかけをつくる(残念な例もつくる)
		子供のころの経験を思い出させる
		親子で参加できるイベント(子供が親をびっパって来るような)
		孫に連れられ高齢者の方も参加できるイベント
		自然体験は年齢層によって取り組み方を変える
		体験する。見たり・触れたり→虫・草木
		どんぐり拾い→子どもの成長につれて高度な内容に
		バタフライパーク(ちょうちの森)
		釣りイベント
		鳴く虫の展示
		観察会
		着ぐるみの活用(生きもののかわいいキャラクター)
		遊びから始める(「ポケモン」のようなかわいらしく親しみやすいキャラクターを活用)

## グループテーマ：②人と自然のかかわりをつくること

やるべき事について、それに対応する到達イメージが細分化されて多く検討された。

課題	到達イメージ	やるべき事
・新しいコミュニティの創出	・人が集まってくる	河川敷を活用する
		自然の中で癒される要素を心のケアに利用する(森林セラピーなど)
		荒れている場所を整備・利用する
		生きものの環境を皆でつくる(バタフライガーデンなど)
		いい自然環境へのアクセスを良くする(程久保川のワンドの整理など)
	・都心からも人が集まってくる	多摩動物園の雑木林の開放散策できるようにする 人が関わる里山管理をする
・豊かな自然による健康増進	・健康づくりの場	手つかずの自然も大切だが、手を入れた自然も大切であることを伝える
		荒れている雑木林を手入れする
・生物多様性の普及啓発	・親と子が自然に興味を持つ	自然体験をとおして、知ることが必要 イベント(自治会・子供会)をいっぱい行う
	・関心が高まる	展示物を設置する場づくり
		情報発信する(まずは知らせる)
		生きもののマップの作成
・身近な自然体験	・次世代を担う人材育成 ・教育の場の形成	遊べる場所、親水地などをつくる
		子供の頃に生物多様性を教える
		子供が遊べる環境づくり
	・生物多様性について理解が深まる	飼育体験(各校でウサギを飼う→猛禽類の餌とするため→かわいそうだね→でもそれが生物多様性)
	・より多くの人が体験することができる	危なくない場所での自然体験
・親しめる自然環境づくり ・市民参画による環境整備 ・生きものの目線の環境保全	・人々が多く自然に関われる	遊べる自然環境づくり
		河や山は楽しいことがいっぱいあることを知ってもらう
	・人々と自然との関わり	環境整備は市民参画で行う
		生きものにとって住みやすい用水づくり(多自然用水づくり)
	・生態系を分けて守る	人と自然が共存できる環境を守る(人の手が入る自然を維持する)
		自然と住民の折り合いをつける
		自然環境を残す 猛禽類が食べ物を発見しやすい、草地環境を整備する
・用水の新しい利活用	・用水を知る・興味を持つことができる	田んぼを守る
		用水の今までと違う用途・本来とは違う利用を考える(例:水路、防火用水)
		水車を利用して精米する
		用水を下や横から見られる構造にする
	・水と親しむ文化の醸成	用水や水を使って遊ぶ、活用する

## グループテーマ：③日野らしい自然を守り育てること

考えられる課題をもとに到達イメージを示し、それぞれの課題ごとにやるべき事が検討された。

課題	到達イメージ	やるべき事
・礫河原の自然の劣化・減少	・本来の礫河原の復元	礫河原の外来種を駆除する
		市民参加型の礫河原維持活動
		多様性に配慮した工事を行う
		河川工事の悪影響をどうにかする
・用水の維持 ・湧水量の減少	・これ以上用水が減っていない ・様々な用途で使われている	田んぼを残す方法を考える
		河川と用水は唯一連続している自然であることを伝える
		消火用の水源として活用する
		小水力発電を検討する
		重点対策場所を決めて対策する
		農業以外の使い道を考える
		観光資源にする
		子供たちが身近に水と生きものに触れて遊べる場を増やす
		水量の確保 雨水浸透の促進
・生態系ネットワークの劣化 ・丘陵、台地、低地のつながり重視！	・「丘陵⇔台地⇔低地」、「川⇔用水」、生きものの往来が今より豊かになっている	多摩丘陵・川・台地をつなげる緑の回廊をつくる
		ネットワークを意識した保全創出の重点取組。効果の高いところを優先的に整備する
・生物の居場所を守る ・希少な生きものを守り、育てる		生きものを育てる企画。1.種を絶やさない。2.数を増やす
		イヌワシの餌となるノウサギを増やす
		ノウサギを絶やさない環境をつくる
		ピラミッドの上の生物から増やす活動をする
		学校でウサギを飼育して、野生に帰して猛禽類の餌にする
・公共の公園緑地の質を高める	・身近な生きものが多く見られる公園緑地になっている	公園緑地の質を高める
		バタフライガーデンをつくる
		質を高める維持管理を続ける
・草地の減少		草地を増やす
・民有地の自然(特に斜面樹林の減少)	・雑木林が生きものにとって暮らしやすいように維持管理されている	守り残せる仕組み、資金源をつくり推進する
		斜面林の価値を理解してもらう努力を続ける
		斜面樹林を残すための基金を立ち上げる
		所有所の名前を残す。寄付者のルーツがわかるように
・外来種の増加		外来種がいるという認識を持たせる。これ以上増やさない取り組みを行う
		外来種を野外に放さないように周知する
		有害鳥獣の対策を検討する。カラス、ハクビシンなど
		(外来魚を)捕食する鳥を守る
		水路内の環境を複雑にして在来種を守る
(・市民が自然に関わる機会を増やす)		日野の魚・昆虫を決める

ワークショップから検討される施策

3つのグループのワークショップで得られたやるべき事を、共通する課題に基づいて整理を行い、それぞれの課題をグループのテーマである現段階の基本方針（仮）に分類した。ワークショップで得られた到達イメージは、それぞれの基本方針（仮）の目標や将来像を示す参考として、方針ごとにまとめて記載している。

基本方針(仮)	課題	やるべき事
人々の関心を高める <div>＜到達イメージ＞<ul style="list-style-type: none"><li>・生物多様性を知らせる</li><li>・関心が高まる</li><li>・親と子が自然に興味を持つ</li><li>・食べてみて生物多様性を「感じる」</li></ul></div>	生物多様性の普及啓発	1「生物多様性」という考え方の認知度を向上させる
		2生きものマップの作成
		3「生きもの検定」の実施する
		4イベント(自治会・子供会)をいっぱい行う
		5親子で参加できるイベント(子供が親を引っ張って来るような)
		6孫に連れられ高齢者の方も参加できるイベント
		7展示物を設置する場づくり
		8情報発信する(まずは知らせる)
		9生物多様性を SNS で伝える
		10身近な環境に「こんな生きものがいる」ことを知ってもらう機会づくり
		11日野の魚・昆虫を決める
	外来種・有害鳥獣の対策	12有害外来種を選定する
		13外来種を悪者に仕立て上げる。アライグマ等
		14外来種がいるという認識を持たせる。これ以上増やさない取り組みを行う
		15外来種を野外に放さないように周知する
		16有害鳥獣の対策を検討する。カラス、ハクビシンなど
		17(外来魚を)捕食する鳥を守る
		18コクチバスの対策。水辺環境を複雑にして在来種を守る
	生物多様性を生活で身近に感じる	19生きものと「食べる」ことをつなげる。野草や魚、虫等
		20料理方法を紹介する(SNS の活用)
		21地元のジビエを食べる機会をつくる
		22市民自身に虫・植物・魚を見つけてもらう機会をつくる
		23衣食住と生きものの関連付けを行う
人と自然の関わりをつくる <div>＜到達イメージ＞<ul style="list-style-type: none"><li>・人々が多く自然に関われる</li><li>・より多くの人が体験することができる</li><li>・教育の場</li><li>・次世代を担う人材育成</li><li>・人々と自然との関わりが豊富</li><li>・自然体験の豊かな人がいっぱいいる日野市</li><li>・都心からも人が集まってくる</li><li>・健康づくりの場</li><li>・生物多様性について理解が深まる</li></ul></div>	身近な自然体験	24自然体験をとおして、知ることが必要
		25遊べる場所、親水地などをつくる
		26子供の頃に生物多様性を教える
		27子供が遊べる環境づくり
		28飼育体験(各校でウサギを飼う→猛禽類の餌とするため→かわいそうだね→でもそれが生物多様性)
		29危なくない場所での自然体験
		30自然体験は年齢層によって取り組み方を変える
		31体験する。見たり・触れたり→虫・草木
		32バタフライパーク(ちょうちよの森)
		33釣りイベント
		34鳴く虫の展示
		35観察会
		36着ぐるみの活用(生きもののかわいいキャラクター)
		37遊びから始める(「ポケモン」のようなかわいらしく親しみやすいキャラクターを活用)
		38多摩動物園の雑木林の開放散策できるようにする
		39動物園に行く機会を利用する。実物を見ながら勉強する
		40ミニ水族館のような場所で実物を見せる
	教育活動の展開	41教員を教育する(生きもの関係について)
		42教員の指導を補う
		43生きものの「素晴らしさ」を教える(子供会・自治会で)
		44自然に関心のない人と自然の接点をつくる
		45ピオトープなど、自然に触れるきっかけをつくる(残念な例もつくる)
		46子供のころの経験を思い出させる
		47どんぐり拾い→子どもの成長につれて高度な内容に
	新しいコミュニティの創出	48生きものの環境を皆でつくる(バタフライガーデンなど)
		49人が関わる里山管理をする
		50河川敷を活用する
		51荒れている場所を整備・利用する
		52いい自然環境へのアクセスを良くする(程久保川のワンドの整理など)
	豊かな自然による健康増進	53自然の中で癒される要素を心のケアに利用する(森林セラピーなど)
		54手つかずの自然も大切だが、手を入れた自然も大切であることを伝える
		55荒れている雑木林を手入れする
	市民参画による環境整備	56環境整備は市民参画で行う
		57遊べる自然環境づくり
		58河や山は楽しいことがいっぱいあることを知ってもらう
		59生きものにとって住みやすい用水づくり(多自然用水づくり)

基本方針(仮)	課題	やるべき事	
<div>日野らしい自然を守り育てる</div> <div><div>&lt;到達イメージ&gt;</div><div><div>・「丘陵⇔台地⇔低地」、「川⇔用水」、生きもの の往来が今より豊かになっている</div><div>・生態系を分けて守る</div><div>・身近な生きものが多く見られる公園緑地になっている</div><div>・雑木林が生きものにとって暮らしやすいように維持管理されている</div><div>・用水を知る、興味を持つことができる</div><div>・水と親しむ文化の醸成</div><div>・これ以上用水が減っていない</div><div>・本来の礫河原の復元</div><div>・様々な用途で使われている</div></div></div>	豊かな生態系	60	多摩丘陵・川・台地をつなげる緑の回廊をつくる
		61	ネットワークを意識した保全創出の重点取組。効果の高いところを優先的に整備する
		62	人と自然が共存できる環境を守る(人の手が入る自然を維持する)
		63	自然と住民の折り合いをつける
		64	自然環境を残す
		65	生きものを育てる企画。1.種を絶やさない。2.数を増やす
		66	猛禽類が食べ物を発見しやすい、草地環境を整備する
		67	イヌワシの餌となるノウサギを増やす
		68	ノウサギを絶やさない環境をつくる
		69	ピラミッドの上の生物から増やす活動をする
		70	学校でウサギを飼育して、野生に帰して猛禽類の餌にする
	みどりの保全	71	斜面林の価値を理解してもらう努力を続ける
		72	斜面樹林を残すための基金を立ち上げる
		73	所有所の名前を残す。寄付者のルーツがわかるように
		74	守り残せる仕組み、資金源をつくり推進する
		75	公園緑地の質を高める
		76	質を高める維持管理を続ける
		77	バタフライガーデンをつくる
		78	草地を増やす
		79	山地(森)の保全
	水環境の向上	80	子供たちが身近に水と生きものに触れて遊べる場を増やす
		81	水量の確保 雨水浸透の促進
		82	重点対策場所を決めて対策する
		83	田んぼを残す方法を考える
		84	田んぼを守る
		85	用水の今までと違う用途・本来とは違う利用を考える(例:水路、防火用水)
		86	農業以外の使い道を考える
		87	観光資源にする
		88	消火用の水源として活用する
		89	小水力発電を検討する
		90	水車を利用して精米する
		91	用水を下や横から見られる構造にする
		92	用水や水を使って遊ぶ、活用する
		93	礫河原の外来種を駆除する
		94	市民参加型の礫河原維持活動
		95	多様性に配慮した工事を行う
		96	河川工事の悪影響をどうにかする
		97	河川と用水は唯一連続している自然であることを伝える